流通とＳＣ・私の視点

2021 年 1 月 25 日

視点(2407)
（流通経済編）

好循環経済と比喩論!!

経済は「投資」→「生産」→「雇用」→「所得」→「消費」と進み、そして投資に一巡して、さらに生産・雇用・所得・消費へと循環して、この循環が右肩上がりの状態を「好循環経済」と言います。

（１）好循環の比喩

比喩的に自然界の好循環現象を「食物連鎖とそれを取り巻く自然環境」について、北海道の北西の周囲 12 ㎞の「天売島（てうりとう）」の事例（ＮＨＫのワイルドライフで放送）を基に説明します。天売島は 100ｍの断崖と緑におおわれた斜面に８種類の海鳥が 100 万羽単位で越冬する鳥や渡り鳥が住んでいます。

ここでの動物や植物の食物連鎖とそれを取り巻く自然環境は次の通りです。

①海鳥（ウミガラスやウミネコ…等）が海から魚類を取り、子育てして、糞や尿や魚の食べ残しが島の土壌の肥料となる。
②土壌の肥料は草木を育て、草木は土壌に養分を含む水分を蓄える。
③養分を含んだ水が海に流れ込み、海中の海藻や植物プランクトンの養分となる。
④海藻や植物プランクトンは、動物プランクトンや小魚、中魚、大魚が育つ。
⑤海鳥が海中から魚類を捕獲して、自らの糧及び子鳥の糧となる。
⑥そして一巡回して、元へ戻る循環が始まる。

この循環は**「にわとりとタマゴ」**の関係で、何が先で何が後かは分からないが、この循環を右肩上がりの好循環とするためには、どこかの段階で拡大を誘引する**「突破口」**（拡大好循環とするための最初のきっかけとなる段階）が必要となります。人工的あるいは自然的に海鳥を増やすのか、魚類を増やすのか、土壌を増やすのか…を突破口として他の段階に波及することにより右肩上がりの好循環が起こります。

（２）好循環経済づくりの概念

自然界と同様に経済も**「投資」→「生産」→「雇用」→「所得」→「消費」**と巡回して、また投資に戻る循環が必要で、この循環が右肩上がりの場合を**好循環経済**と言います。

好循環経済になるためには、「投資の増加が生産の増加に結びつき、生産の増加が雇用の拡大となり、雇用の拡大が所得増加となり、そして所得増加が消費の増大に結びつく」ことが必要です。これらの各段階は「にわとりとタマゴ」の関係にあり、好循環経済となるためには、どこかの段階を「突破口」として、**政策目標的あるいは利益動機的**に刺激して、まさに突破口としなければなりません。経済の循環システムのどの段階を突破口とすると効果が高いかは、経済の発展のレベルや景気の状況等によって異なります。これらメカニズムを解明するための突破口となる各段階の内容は次の通りです。これらの段階の内容を政策目標的あるいは利益動機的に適正なる個々の中味を刺激することが必要です。

①投資の内容
・ハードウェア投資（機械、装置、設備…等の有形資産投資）
・ソフトウェア投資（ノウハウやコンテンツ…等の無形資産投資）
・金融投資（金融商品やＭ＆Ａ…等の投資）

②生産の内容
・第１次産業の生産（農林漁業産業）　・第２次産業の生産（製造業産業）
・第３次産業の生産（サービス産業）　・第４次産業の生産（知的産業）

③雇用の内容
・会社就業者の雇用（正規・非正規雇用）　・個人事業及び自由業の雇用　・無職（専業主婦含む）

④所得の内容
・可処分所得（消費支出＋貯蓄）　・税金及び社会保険料

⑤消費の内容
・財(モノ)消費　・飲食消費　・利便サービス消費　・情報＆コンテンツ消費
・エンターテインメント＆レジャー消費　・教育･保育&文化･スポーツ消費　・医療･介護＆非貯蓄系保険

(株)ダイナミックマーケティング社[+8]
代　表　六　車（むぐるま）　秀　之

Copyright (C) Dynamic Marketing Co. Ltd. 2021 All rights reserved.